

「慶應義塾大学先端生命科学研究soの研究成果等に係る第4期中間評価報告書」の概要

1 趣旨

慶應義塾大学先端生命科学研究so（以下「研究所」という。）への第4期支援期間（平成26年度～平成30年度）の中間年次であることから、第4期のこれまでの期間の研究成果等について有識者による評価を実施した。

2 評価方法

バイオ研究、産学連携、事業化等に精通する有識者5名による評価委員会を設置し、研究所から提出された報告書等に基づき書面評価を実施するとともに、質疑応答等を行う2回の評価委員会を開催し、「研究の進捗状況」、「事業化」、「人材育成」など5つの観点から総合的に評価した。

（評価委員）

横山 正明	山形県立産業技術短期大学校長
大石 道夫	公益財団法人かずさDNA研究所 理事長
成澤 郁夫	公益財団法人山形県企業振興公社 プロジェクトマネージャー
林 聖子	亜細亜大学 都市創造学部教授
大島 まり	東京大学大学院 情報学環・生産技術研究所教授

3 評価結果

（1）総合評価 【優れた取組が進められている】

医療分野を始めとしたメタボローム解析を活用したバイオ研究の進展、研究成果の事業化によるベンチャー企業の創出、県内企業等との共同研究の活発化、地域人材育成の取組の拡大、研究所を核としたサイエンスパークの拡大やバイオ関係機関・企業の集積など、研究所の効果により様々な分野で波及効果が生まれている。今後は、各取組の成果の具体化が求められる。

（2）評価項目別の評価結果

① 研究の進捗状況 【非常に大きな進展がみられる】

メタボローム解析技術を中心に、多岐にわたる分野において、基礎から応用までの研究が積極的に展開され、新規性や独創性の高い研究成果が生まれている。健康・医療分野では、各種疾患のバイオマーカー研究やコホート研究の進展、農業・食品分野では、県産の農産物等の健

康機能性成分等の解析、環境分野ではオイル産生藻等の研究の進展など、各分野において成果が得られている。今後は、世界的な学術誌へ掲載されるような高い水準の研究成果等がさらに進展していくことが期待される場所である。

② 事業化【非常に大きな進展がみられる】

第3期の評価以降、唾液のメタボローム解析による癌の早期発見の検査を提供するサリバテック社、腸内細菌の解析によって健康評価・疾患予防を事業とするメタジェン社、線維芽細胞に着目し新しい治療法の開発に取り組むメトセラ社と、3社のベンチャー企業が発足しており、雇用創出等による地域貢献が期待される。人工合成クモ糸素材については、クモ糸の特色を生かした製品の商品化が期待される。

③ 人材育成【大きな貢献がなされている】

高校生等に対する人材育成については、サマーバイオカレッジ、高校生バイオサミット、研究助手・特別研究生制度など、理科離れの時代に若い高校生達に生命科学に興味を抱かせるという観点からは素晴らしい取組が進められている。今後は、これらの高校生たちがどのような道へ進んだのか、追跡調査等の実施が望まれる。また、地域の大学等と単位互換協定を締結し、地域の学生も併せて人材育成が図られていることは大いに評価できる。

④ 産学連携【非常に優れた連携が進められている】

県内企業支援の推進は、産学連携コーディネーターを配置し、共同研究テーマの発掘も進められていることもあり、極めて活発に実施されている。また、多くの国内外の企業との共同研究も進められ、今後の事業化が期待される。今後は、県内の大学、試験研究機関等との連携をより強化するとともに、共同研究等に対する評価システムの確立が重要であると考えられる。

⑤ 今後の研究方向【優れた成果が期待される計画となっている】

これまでの研究の方向性により成果が得られていることから、基本的には今後も踏襲すれば、多くの成果が得られることが期待できる。また、今後は、新しい研究のシーズを積極的に探していくことも重要であると考えられる。